

みどりみらい 3rd Season ぐんじとしのりの議会報告

2011/08/21 Vol.8 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362

E-MAIL ID : toshigunji@hotmail.com / Twitter : @toshigu

http://www.mmirai.com (HP) http://togu.seesaa.net/ (ブログ)

平成 23 年第 2 回印西市議会定例会報告 (4) ～ 病院の誘致について (2)

いつもお世話になっております。印西市議会第2回定例会(6月議会)は、6月30日(木)迄の会期で行われ、閉会しました。(今回も「病院の誘致」についての報告を中心に行ないます。)

6/10(金曜日)に個人一般質問に立ちました。

2. 病院の誘致について

医療法人緑生会による病院開設許可申請についての説明が5月24日の全員協議会であったが、今後、印西市として病院の開設に向けて、どのような方針を持ち、働きかけを行っていくつもりか。

- (1) 千葉県に対して
- (2) 医療法人緑生会に対して

(回答/保健福祉部長(再掲/抜粋)) (1)の千葉県に対しましては、本市における二次救急に対応した病院開設または増床計画に対する病床配分について特段の配慮をお願いするものでございます。また、(2)の医療法人緑生会に対しましては、印西市が求める医療環境の構築が図れるよう周産期医療に加え、二次救急医療施設の整備についてお願いしていきたいと考えております。

(ぐんじとしのりから/再質問)

- ① 特段の配慮とは何か？
- ② 緑生会とどのようなコミュニケーションをとっているのか？

(回答/保健福祉部長)

① 本年8月22日から1か月間、千葉県保健医療計画に基づく病院開設または、増床計画の受付が予定されております。その際、本市にとって二次救急医療施設の整備が急務となっていることを十分理解していただき、二次救急機能を備えた計画に対して病床配分がなされるようお願いしたいということでございます。② 緑生会とのコミュニケーションは、開設許可申請後、市広報に掲載する内容についてや医師会、歯科医師会に対して計画内容を説明する機会の設定等について連絡をとっている状況でございます

(ぐんじとしのりから/再質問)

私たちの家族が急病になった場合にどこに運ばれるのでしょうか？救急搬送の実績は？

(回答/保健福祉部長(抜粋))

平成22年度の実績 全体数3,298件 (内訳) 日本医大千葉北総病院 968件(約30%)
セコメディック(船橋)480件、鎌ヶ谷総合病院 282件、成田日赤病院 196件 他

・・・このうち、印西市が属する「印旛医療圏(二次保健医療圏)」に該当する病院は「成田日赤病院」だけです。(「日医大」は本来は、三次保健医療圏を担う病院です。)

(ぐんじとしのりから解説) 印西市が名前を連ねる印旛保健医療圏とは成田、佐倉、四街道、八街、富里、酒々井、栄、白井の7市2町で構成され、その医療圏の中で「特殊な医療を除く病院の病床の整備を図るべき」とされています。平成23年5月10日現在で発表された千葉県保健医療計画(平成23年4月公示)に基づく不足病床数は印旛保健医療圏は491床あります。・・・印旛保健医療圏の病床整備について、今年22日から9月21日までに「病院開設(増床)計画書」を千葉県医療整備課に提出する必要があります。その後、県の医療審議会(病院部会)／非公開を経て、病床配分がされるということになります。(2012年の2月か3月に病床配分の予定。)

今回、印西市に進出する「緑生会」(2012年12月にオープン予定)は二次緊急医療に関しても病床配分さえもらえればやりますという前向きな話はあるようですが、市当局も新たな病床整備については「緑生会」からも「計画書を提出する」という確定した話を聞いているわけではないので慎重な姿勢をとっています。「印西医療センター」として、入院病床数81床(産婦人科等)の開設準備は進んでいます。

(ぐんじとしのりから/再質問) 資金計画で頓挫した「正徳会」の二の舞を避けるためにも、財政支援は考えられないか？

(回答/保健福祉部長(抜粋)) 病院の開設運営資金については市として財政出動はしない。ただし、小児救急などそういった事業運営についての財政支援は検討すべきだと考えています。

(ぐんじとしのりから皆様へ) 議会でも申し上げたのですが医療法人の立場に立って、「病院の進出を考えていて、人口が張り付いてきて患者もふえそう。ここは魅力的だ。だけど、進出したいがお金が足りない」。こんな医療法人があった場合、あきらめざるをえないのではないのでしょうか？もし、他の自治体で当市は全面的に協力します。土地は貸します。という自治体がでてきたら、印西市は勝てないと思っています。例えば、直接の財政支援は難しくとも、進出にかかる費用を軽減するためには、やはり一番は土地や建物についての市当局のサポートがあれば、医療法人も印西市は魅力的な自治体ではないかと考えています。(具体的には「市街化調整区域」を病院の土地として許可することが可能ならば費用軽減が図られると私は考えています。)しかし、印西市では「インフラ整備が整っていない市街化調整区域に病院を設置する合理的理由を市として十分に検証する必要がある。」といった考えに留まっています。

また、今は緊急病院が市内に必要です。しかし、市としては「病床の整備計画」について、もっと今後を考えて読み込んでいただければと思います。「新千葉県保健医療計画における不足病床の配分の考え方」を読むと、緊急病院がないのは誰もが理解しているところですが、「ない病院はそれだけではない」のです。回復期リハビリテーション医療、高齢化に対応した医療、在宅医療支援。どれも千葉県保健医療計画で優先して病床配分を行え、地域医療にとって特段に整備すべきものに位置づけられている。確かに、印西市には日医大があり、ほとんど全てを担うことは可能かもしれないが、3次医療を担う病院であり、市民の安全安心を守るには仮に緑生会が緊急病院を担うことができても他の病院が必要だと私は思います。緊急病院の誘致の先も見据えなければなりません。10年先を皆様と考えていきたいと思っています。

この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。また、この紙面は皆様のお手元に配布するまで地域により、1週間程度の時差が発生することもあり、市政の最新情報を求める方は、私のブログやツイッターをご覧ください。市民参加のまちづくりを引き続き、皆様と行ってまいります。宜しくお願ひします。

ぐんじとしのり